



2021.9.5



出典 (朝日中高生新聞)

米国中枢に同時テロ 9・11 とは何か 20年経て、いまの世界を考える

2001年9月11日。米国で、ハイジャックされた4機の飛行機がニューヨークの高層ビルなどに突っ込みました。日本人24人を含む2977人が亡くなりました。世界を揺るがした米同時多発テロから、今年で20年です。このテロ事件は、今のアフガニスタンの混乱にもつながっています。何が起き、どんな影響を残したのでしょうか。(中塚慧)

当時高1の米国人 「世界の終わりのよう」

20年前の9月11日午前8時46分、テロリストに乗っ取られた飛行機は、ニューヨークにある世界貿易センターの110階建てビル北棟に突っ込みました。その17分後、別の飛行機が南棟に激突しました。約1時間後に両棟とも崩落。飛行機の乗員乗客やビルにいた人たち、救助にあっていた消防士や警察官らが犠牲になりました。

3機目はバージニア州の国防総省ビル（ペンタゴン）に突入。4機目はワシントンのホワイトハウスなどを狙ったとみられますが、乗客の抵抗で、ペンシルベニア州ピッツバーグ郊外の畑に墜落しました。

ペンシルベニア州の中学教師、チャド・ケリーさん（35）は当時、高校1年生。ピッツバーグの高校で数学の授業を受けていた時、上級生が教室に入ってきてニューヨークのニュースを伝えました。

先生は「うそだろう」と上級生を退けましたが、すぐに本当のことだとわかりました。全校生徒が講堂に集められ、迎えに来た保護者とともに帰りました。祖母の家に母と妹と着いたケリーさんは、4機目の飛行機が自分たちの暮らす地域の近くに墜落したことを知ります。テレビから流れる信じられない映像を食い入るように見つめました。「何が起こったのか理解できず、ハルマゲドン（世界の終わり）のように感じた」と振り返ります。



ニューヨークの現場近くでは掲示板が設けられ、行方不明者の写真や連絡先が貼り出されました = 01年9月16日 ©朝日新聞社

「テロの後、人々が優しくなった」

大人になった今、気づいたことがあります。「9・11 テロの後、人々が優しくなった。人とていねいに接したり、ほかの人にドアを開けてあげたりと、日常のあらゆる面で。ひどい悲しみを共有したから、団結力が高まったのかもしれない」

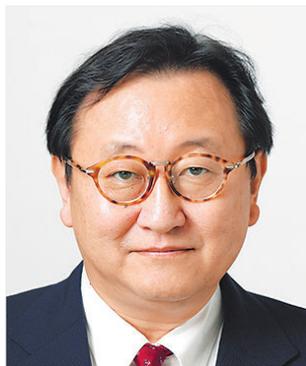


国連の安全保障理事会は事件の翌日、テロの脅威に対して個別・集団的自衛権を認める決議を採択しました。

犯行に及んだのは、アフガニスタンに拠点があるイスラム過激派の国際テロ組織アルカイダです。米国は、指導者オサマ・ビンラディン容疑者の引き渡しをアフガニスタンに要求しましたが、当時のタリバン政権はこれを拒否。米国はアフガニスタンを軍事攻撃し、タリバン政権は倒されました。

米国はさらに、イラクのフセイン政権がテロリストを支援していると主張。03年にイラクに攻め込みました。イラク戦争です。アフガニスタンの時とは違い、ドイツやフランス、ロシアなどイスラム教徒が中心でない国も反対し、国連安保理の明確な決議のないまま行われました。米英の攻撃で、フセイン政権は倒されます。米国は「イラクが大量破壊兵器を開発している」としましたが、それらは見つかりませんでした。後に「大義なき戦争」といわれます。

大阪大学大学院教授の星野俊也さん（国際政治学）は「これまでの争いは国家間や、内戦を繰り広げる国内の対立勢力が中心でしたが、9・11 テロ以降、国ではない国際テロ組織が大きな脅威となる時代になりました」と話します。



星野俊也さん

イスラム過激派 聖地ある国への米軍駐留に反発

なぜ、アルカイダは9・11 テロを起こしたのでしょうか。大阪大学大学院教授の星野俊也さんは「少なくとも、イラクのクウェート侵攻にさかのぼる必要がある」と話します。

1990年、イラクは隣国クウェートに攻め入りました。次はサウジアラビアに侵攻するかという状況になり、これに対抗しようとして米軍がサウジに駐留しました。91年に多国籍軍が武力介入。この「湾岸戦争」は、イラクの敗北で終結しました。

9・11 テロを犯したアルカイダの指導者ビンラディン容疑者は、サウジ出身です。メッカとメディナというイスラム教の聖地があるサウジは、イスラム教徒にとって特別な国。異教徒である米軍の駐留を許したことに、イスラム過激派は反発しました。その一人がビンラディン容疑者です。米国への敵対心が芽生えていきました。

以降、アルカイダが関わったとされるテロ事件が続きます。93年には米ニューヨークの世界貿易センターの地下駐車場が、98年にはケニアとタンザニアの米大使館が爆破されました。

2003年に始まったイラク戦争は、11年に米軍の撤退で終結。米ブラウン大学の19年発表の調査によると、アフغانستان紛争やイラク戦争で、戦地の民間人25万～27万人ほどが犠牲に。米兵も7千人近く亡くなりました。

長引く戦争で、こうした国々では反米意識が高まりました。14年には、過激派組織「イスラム国」(IS)がイラク北部で「国家」樹立を宣言。その後、米軍主導の有志連合による攻撃などでISは勢力をなくしましたが、20年ごろから再び盛り返しているともいわれます。

敵と決めつけず 変化の兆し見極めて

バイデン米大統領は今年4月、9・11テロから20年を前にアフغانستانから米軍を完全撤退すると表明。その隙をついたように、イスラム主義勢力タリバンが大統領府をのっとり、ガニ政権が倒れました。

先月26日には、国外に逃れようと国際空港に殺到した人を狙ったテロが発生。ISの支部組織による犯行で、米兵13人やアフغانستانの市民ら170人が犠牲になりました。その後の米軍とISの攻防でも、市民の犠牲者が出たとみられます。

タリバンはかつての政権でイスラム教の教えを極端に解釈し、女性が学んだり働いたりする権利を奪いました。どう国を治めるのか心配されます。

「この20年続いた、憎しみが憎しみを呼ぶ悪循環を断ち切るには、相手を敵と決めつけないことが大切です」と星野さん。タリバンは、イスラム法の範囲内で女性の権利を認めると明言しました。「『信じられない』と言ったら、後は対立しかありません」

一方で、タリバンにより権利が侵害されている例が散見されます。「それは容認してはならない。しかし、変化の兆しがあるところで、相手との対話をやめ、軍事的な圧力をかけても解決はしない。この20年間で彼らがどう変わったのか見極めていく必要があります」



9・11テロ前後に 米国や中東で起こった 主なできごと

1990年	イラクがクウェートに侵攻
91年	湾岸戦争
2001年	米同時多発テロ アフغانستان紛争 (～21年)。タリバン政権崩壊
03年	イラク戦争(～11年)。 フセイン政権崩壊
11年～	シリア内戦 米軍がビンラディン容疑者を殺害
14年	「イスラム国」(IS)が「国家」樹立を宣言
21年	タリバンがアフغانستانの首都カブールを制圧、ガニ政権が崩壊。米軍のアフغانستان撤退が完了



2021.9.5



出典（朝日中高生新聞）

米国中枢に同時テロ 9・11 とは何か

20 年経て、いまの世界を考える

【知識】

テロリスト

国連の安全保障理事会
(国連安保理)

多国籍軍

【読解】

問 1. 9・11 とはどのような事件ですか？

問 2. なぜアルカイダは、9・11 を起こしたのでしょうか？

問 3. 2001 年にもアフガニスタンのタリバン政権は崩壊しています。なぜでしょうか？

問 4. 9・11 以降、戦争はどう変化したと星野教授は言っていますか？

【思考】

国際テロ組織「アルカイダ」、過激派組織「イスラム国」(IS)、今年 2 月にアフガニスタンの政権を掌握したイスラム主義勢力「タリバン」、いずれもイスラム教を信条にもつ組織です。例えば「タリバン」は、かつての政権でイスラム教の教えを極端に解釈し、女性が学んだり働いたりする機会を奪いました。

少なからず、あなたの友人の中にも全く価値観が合わないと感じる人やグループがいると思います。そんな価値観の合わない相手と、一緒に何かをしなければならぬ場合、あなたならどうしたら良いと考えますか？

600 字 4 段落構成でまとめてみましょう。